第１回　昭島市男女共同参画推進委員会
議　事　要　旨

〔日　時〕　令和６年５月 17 日（金）18：30～20：00
〔場　所〕　アキシマエンシス校舎棟　男女共同参画センター
〔出席者〕
１　委員：　金野美奈子委員長、柴田邦臣副委員長、上川純子委員、佐藤晴美委員、長谷部高史委員、
　　　　　　牧野愛子委員、向井翔兵委員、森川民子委員

２　事務局：滝瀬子ども家庭部長、吉田男女共同参画・女性活躍支援担当課長、渡邉男女共同参画センター
　　　　　　担当係長

３　傍聴者　０名

〔配付資料〕
・昭島市男女共同参画推進委員会要綱
・昭島市男女共同参画進委員会委員名簿
・「昭島市男女共同参画プラン」本編・概要版
・昭島市男女共同参画プラン令和４年度進捗状況報告書
・推進委員会　今後の予定

〔議事要旨〕
１　開会
男女共同参画・女性活躍支援担当課長より開会の挨拶。

２　委嘱状の交付
子ども家庭部長より各委員に委嘱状の交付。

３　子ども家庭部長挨拶
推進委員会の設置、委員委嘱に伴い、子ども家庭部長より挨拶。

４　委員及び事務局自己紹介
各委員及び事務局職員の自己紹介。

５　議題
（１）　委員長、副委員長の選出
委員の互選により、委員長に金野委員、副委員長に柴田委員が選出。

（２）　推進委員会の運営について
◇会議は公開で臨みたい。情報公開の趣旨に照らし、情報を公開し、市民の皆様と協働して取り組むことが重要と考えている。会議の日程については、事前にホームページ等でお知らせし、会議の傍聴も可能とする。会議録を公開の方向で考えている。ご発言は議事録を作成するため、会議の際のご発言は名前と共にお願いする。会議では忌憚のないご意見をいただきたいと思う。【事務局】
（３）「昭島市男女共同参画プラン」について

◇このプランは男女共同参画社会を実現するための市の基本的な考え方と施策を総合的、計画的に推進するための事業計画であり、令和３年度からの 10 年間のプランとして策定されている。

本計画の基本理念は、平成 15 年１月１日に宣言された、昭島市男女共同参画都市宣言に掲げる、性別や世代を超えて、一人ひとりがいきいきと輝く男女共同参画社会の実現を目指している。

基本的な視点では、「人権の尊重」、「柔軟で多様な生き方に向けての意識の醸成」、「あらゆる分野における男女共同参画の推進」、「すべての人が安心していきいきと暮らせる社会的包摂の推進」の４つを掲げており、その基本理念の実現に向け４つの基本目標と重点的な取り組みが設定されている。「目標Ⅰ多様性を認め合い、すべての人が尊厳をもって暮らすことができる意識づくり」では新しく多様性への理解の促進が取組に入り、「目標Ⅱ女性活躍とワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進」「目標Ⅲあらゆる暴力の根絶と被害者支援」「目標Ⅳすべての人が安全・安心に暮らせるまちづくり」となっている。新規の取り組みは、配慮を必要とする人に対する支援と多様性を尊重する環境の整備である。基本目標ごとに施策の方向・主要施策を位置づけ、計画の推進を図っている。目標Ⅱについては、「女性の職業生活における活躍の推進に関する法律」に基づく「昭島市女性活躍推進計画」。目標３「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護等に関する法律」に基づく「昭島市配偶者暴力対策基本計画」を包含するものとなっており、それぞれの法の趣旨の実現も目指している。それぞれの施策内の具体的な主要事業が挙げられ、その事業を実施する担当課が右欄に記載されている。計画の推進に当たり、目標指標を掲げ、令和 12 年度の最終年次の目標達成に向けて施策展開を図り、施策毎にモニタリングの項目を設定したものを記載している。毎年各担当課から数字の報告を受け、評価の参考にしている。目標ごとに昨年度の事業の評価をしていただきたい。不明な点等は事務局までお問い合わせいただきたい。【事務局】

（４） 評価方法について

◇評価の際にご使用いただく進捗状況評価シートは改良を重ねており、今回使用しているシートについては主要施策ごとの担当課の評価点数合計欄と委員会の評価（４段階の優・良・可・不可）欄、委員会評価の説明・評価のポイント欄を主要施策の隣に記載し、そうすることで、主要施策毎に担当課評価や委員会評価が読み取りやすい報告書となっている。進捗状況評価シートは左から男女共同参画プランの内容、事業を実施した担当課の取組状況、取組に対する委員会のコメントという作りになっている。評価については、事業の取り組み状況をお読みいただくとともに、あわせて評価基準もご利用いただき、右欄にコメントと、優良可不可の評価をお一人ずつご検討いただき、事前に、皆様の意見を取りまとめたのち、会議でさらに検討しながら、委員会全体の評価をまとめていきたいと考えている。今年度評価をいただく令和５年度実施事業の担当課の取組状況については、現在、取りまとめ中で、６月の第２週目あたりまでにはまとめたものを各委員にメールや郵送でお届けしたいと考えている。【事務局】

（５） 推進委員会の今後の予定について

◇推進委員の任期は２年であり、今年度は本日を含めて４回、来年度は３回の委員会を開催する予定である。会議開催予定は資料のとおりで、詳細な日程については、決まり次第ご連絡させていただく。今年度の委員会の進め方については、市役所内で昨年度の実施事業について集約後、進捗状況報告書を送付する。これは、委員会の評価やポイント、コメントが空欄のものなので、委員会の評価欄、優良可不可、評価のポイントは各々の主要施策全体について、そして、取組に対する委員会のコメントは事業毎に有効性や成果があったか、今後の課題また、ご提案などをご記入いただく。男女共同参画センターで集約し、委員のご意見の一覧表を作成し、第２回、第３回の会議にて、一覧表に記載した各委員のご意見を踏まえ、さらに議論を進めます。年次評価報告書の素案を事務局が作成し、第４回会議にて、素案についてご検討いただき、年次評価報告書のまとめを行う。男女共同参画プラン年次評価報告書【令和５年度　進捗状況】について、委員長から市長に報告していただくようになっている。書類等の作成毎に皆様には、ご確認いただくのでよろしくお願いしたい。【事務局】

◆プラン10ページの担当課評価「a、b、c、d」と44ページの「優、良、可、不可」がおそらくこれは同じ基準という形で対応していると思うが、今まで自分は稀に「不可」をつける事があったが、担当課評価のｄの０点というのは、その時のイメージとしては、施策が進んでいない、何も取り組まれていないためこれは評価に値しないというマイナスのイメージで評価をしていたが、担当課は事業を実施していても去年と変わらなかった場合にｄ評価にしているなら、少し見方を変えないといけないかと思った。加点評価の方が良いのか。【長谷部委員】
◇確かに、担当課が事業を実施していても満足していなければ、ｄと記載することはある。【事務局】
★「a、b、c、d」と点数は必ずしも一致しない、この点数をもとに達成度の計算を行い、加算方式の中での 0 点というのは、つまり加点が無いということで、そこにマイナスはない。進行がマイナスであるかどうかということは、「a、b、c、d」でつけていただくが、それに応じてある程度加点がされる。点数が 3 から 0 だからマイナスという評価をしてはいけないということではない。0 点というものはマイナスであると読み込むこともできる。【柴田副委員長】
☆ありがとうございます。マイナスと、その全部を含むということである。【金野委員長】
◆11 ページから 39 ページ、70 番まであるが、１つずつ読み、全ての項目に対して評価をするということか。【上川委員】
◇そういうことである。ただ、委員会評価は全てご評価いただく必要があるが、ポイント、コメントの部分は気になる箇所のみ記載いただければ問題ない。そして、委員の意見を取りまとめたものを作成する。さらに、会議で新たなご意見等をいただければと思う。【事務局】
★私達が評価を下す基準は何かというと主要施策レベルである。次回は目標Ⅰ、Ⅱを議論する。かつ私達の基準は主要施策というところで、①②③とあるが、目標Ⅰの１①であれば、「男女共同参画に関する理解の促進に向けた情報提供・啓発の推進」でこの単位ごとに評価を行う。主要施策の①に関し、委員長からいかが評価しますかというふうに聞かれるので、それについて「優、良、可、不可」という評価をすることとなる。実際にこの主要政策の内情に関し、行政は各担当課が細かくわかれており、行政の担当課ごとにそれぞれ主要な事業があり、この事業ごとに様々な自己評価を担当課ごとに「a、b、c、d」の評価をつけている。ただ、これはあくまで参考値である。主要事業を担当している部署はどう考えているのかということを参考に読み込んでいただきたいと思う。読んでいただいた結果、主要施策ごとの全体の評価として委員からご評価いただく、というのが基本的な委員会の進行になっている。主要施策ごとに評価いただき、それぞれの意見を述べていただき、その全体の評決を委員長にご採択いただく。委員の人数が偶数なので、意見が分かれた際、副委員長が意見を述べる形となる。【柴田副委員長】
☆主要事業の数はそれぞれバラバラで、主要事業が該当する主要施策毎に評価するという事でよろしいか。【金野委員長】
★ご認識のとおりである。【柴田副委員長】

６　その他
◇次回の日程については決まり次第ご連絡させていただくが、７月の下旬を予定している。また、６月 23 日に男女共同参画セミナー「親と子のおかたづけ講座」を開催する。こちらは、昨年の男女共同参画推進委員会で、委員から、親子で参加する講座は、親が参加し話を聞いていたということが、摺りこみの様に記憶に残り、広い意味での教育、啓発につながっていくのではないか、というご提案をいただき開催することとなった。昨日からの募集開始で多くのお申込みがあり、定員を増やしたところである。今後の推進委員会では、このような様々なアイデア、ご意見を賜りたい。【事務局】
☆それでは、第１回の推進委員会を終了させていただく。次回もどうぞよろしくお願いしたい。ありがとうございました。【金野委員長】